

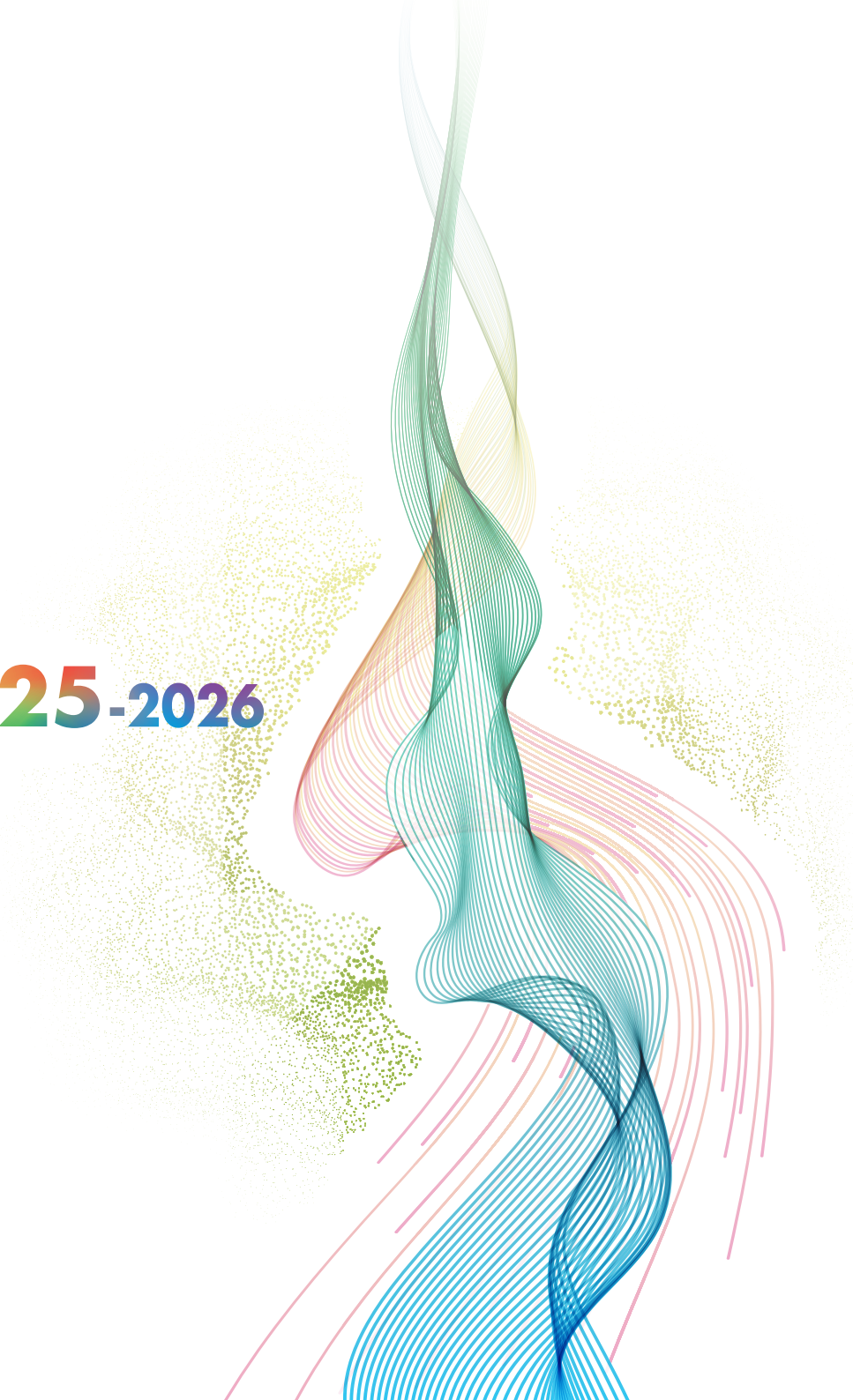
Sustainability Report

サステナビリティレポート 2025-2026

もっと、グリーンな明日に。



エコモット株式会社



もっと、グリーンな明日に。

Towards a Greener Tomorrow

地球温暖化がどんどん深刻になり、世界の平均気温は上がる一方です。
経済成長が優先され、自然は破壊、地下資源がどんどん使われます。
私たちは、これからの地球環境を次世代に残す責任があります。
AI や IoT などの最先端のテクノロジーを駆使して、
創エネ、省エネ、蓄エネで地球環境を変えていくことが私たちの使命です。
「IT をツールとして環境を守る」
創業時の理念に立ち返り、
グリーントランスフォーメーション GX 社会の新たな時代に、
私たちはテクノロジーで貢献していきます。

コーポレートスローガン	01
企業理念・トップメッセージ	02
事業概要	03 - 05
沿革	06
サステナビリティ基本方針	07
サステナビリティ担当役員メッセージ	08
サステナビリティ活動サマリ	09 - 10

環境

環境トップページ	11
ユニークなアイデアで新しいソリューションを創出	12 - 14
融雪制御装置の省エネ運転で CO2 削減	15
外部連携と社内実践で推進する環境活動	16

働く人

働く人トップページ	17
働きがいのある仕事・より良い働き方の構築	18 - 19
社員やその家族・大切な人のウェルビーイングの向上	20
チームワークの向上と健康な体づくり	21 - 24

社会貢献

社会貢献トップページ	25
次世代を担う人材の育成	26
安全で安心して暮らせるまちづくり	27 - 28
災害対策と復興支援	29 - 30

コーポレート・ガバナンス	31
会社概要	32



代表取締役

Takuya Irisawa

エコモットの使命

未来の常識を創る

インターネットが社会のインフラとなった今、これからはITをツール（道具）として、社会問題にどう生かすか？というのを考え、実行していくのが、我々エコモットのミッションです。

地球規模での環境危機は深刻化の一途を辿り、同時に、少子高齢化や労働人口の減少は、産業構造と社会基盤の維持に大きな課題を突きつけています。

経済成長を追求する中で生じた、これらの複雑に絡み合う社会課題は、私たち次世代の責任として、根本的な解決が求められています。

AI や IoT などの最先端のテクノロジーを社会に実装し、そうした社会課題を解決していくことが、私たちの使命です。

地球環境と人間社会、双方の課題の解決を通じて、持続可能な未来社会の実現に、私たちは貢献していきます。

Vision あるべき姿

もっと、グリーンな明日に。

AI & IoTで社会課題を解決

Credo 行動指針

- 成長にコミット **Commit to Growth**
- イノベーションへの挑戦 **Challenge for Innovation**
- チームでコミュニケーション **Communicate with Team**
- 注意深くスピーディに **Carefully and Speedy**
- 社会への貢献 **Contribution to Society**
- 健康に気を配る **Care for Wellness**

LOGO ロゴに込められた想い

エコロジー (Ecology)

環境に優しい、自然環境を大切にする

「北」北海道/人との繋がり

北海道を起点に人々との繋がりを大切に



リモート (remote) / モバイル (mobile)

「遠隔の」「離れた場所にある」/ モバイル通信

IoT・AI Business

エコモットが誇る「未来の常識を創造する」テクノロジー

自社開発の IoT ゲートウェイと 2,000 種を超えるセンサー接続実績、そして AI 解析を統合した包括的なプラットフォームを「コア技術」とし、社会インフラなどの管理業務の省人化・自動化を実現することで未来の常識を創造します。

IoT・AI ビジネス共創事業

エコモットの IoT×AI テクノロジーが拓く共創ビジネスによる革新的な社会課題解決

IoT・AI ビジネス共創事業は、エンベデッド技術と最先端 AI テクノロジーを集約した自社プラットフォームを基盤とし、アライアンス企業のニーズに合わせてソリューションをスピーディに提供する事業です。これにより、深刻化する人手不足やカーボンニュートラル (GX)、防災・減災といった社会課題の解決を目指し、持続可能な未来の創造に貢献しています。



導入事例 KDDI IoT クラウド Standard

センサーやカメラ、現地機器などをインターネットに接続することで、データの収集・分析を可能にする IoT プラットフォームです。
業務効率化やコスト削減、売上増を支援します。



IoT・AI ビジネス共創事業



導入事例 積水樹脂 ICOT-LINK

積水樹脂の LED 表示板「オプトマーカー IoT」とインターネット上の地図データを連携させた Web アプリケーションサービスです。「オプトマーカー IoT」周辺の各種 IoT センサー情報を集約・解析し、製品やシステムの一括遠隔監視や遠隔制御を可能にします。

Smart Infra

スマートインフラ事業

深刻なインフラ老朽化と人手不足という社会課題に対応するため、エコモットのスマートインフラ事業は、IoT と AI 技術を活用し、社会インフラ（道路、河川、ダムなど）の維持管理に対し、監視・遠隔操作・自動制御といったソリューションを提供することで、管理業務の省人化・効率化と、災害に強い安全なまちづくり（防災・減災）への貢献を目指します。



具体的には、水門の遠隔操作や、ドライブレコーダーの映像を使った AI による道路のひび割れや、事故損傷箇所の自動抽出・判別技術を提供しており、これにより、緊急時における人命・資産を守るための迅速な意思決定、道路陥没事故などの重大事故の未然防止、さらにはインフラ維持管理コストの抜本的な削減といった多大な効果が得られます。

導入事例

国土交通省 中部地方整備局が公募した 現場ニーズ「道路異常箇所の自動抽出・事故損傷箇所を判別する技術」に採用

国土交通省の「現場ニーズと技術シーズのマッチング」は、建設現場の生産性向上や課題解決を目的とした取り組みであり、エコモットは、巡回業務の負担軽減や損傷箇所の特定精度向上という現場ニーズに対し、通信型ドライブレコーダーを活用した技術を提供しています。

具体的には、巡回車や公共車両のカメラ映像を AI でリアルタイムに解析し、道路のひび割れなどの異常箇所を自動で検出・記録するとともに、日々の画像を時系列で参照することで事故前後の損傷箇所を正確に判別します。

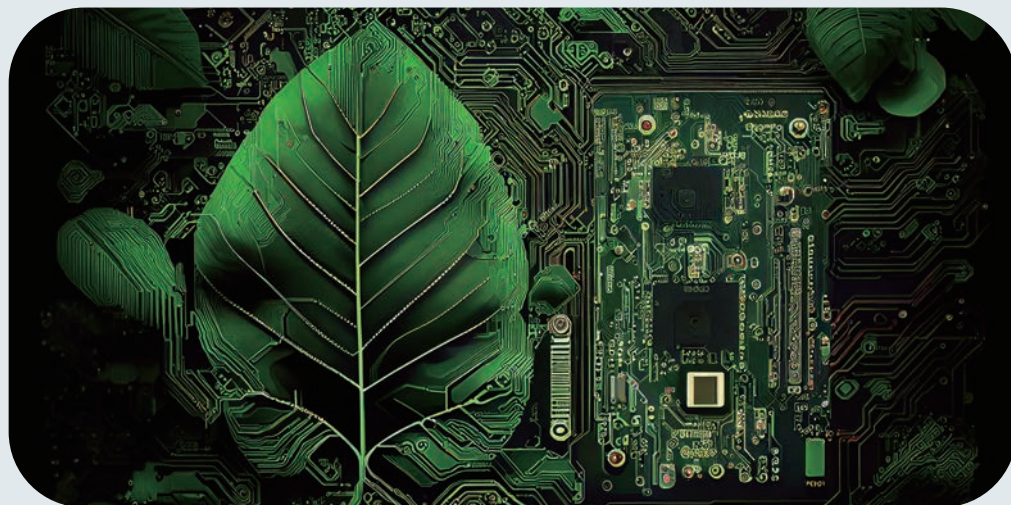
これにより、巡回員の負担軽減や、事故後の原因特定迅速化、将来的には道路の陥没事故を未然に防ぐ技術の確立と実用化を進め、老朽化が進むインフラの維持管理コスト削減と災害に強い安全なまちづくりへの貢献を目指します。



GX & Key Business

GX（グリーン・トランスフォーメーション）事業

ECO×REMOTE から生まれた カーボンニュートラルの実現に向けた取り組み



エコモットの「GX（グリーン・トランスフォーメーション）」は、「もっと、グリーンな明日に。」をスローガンに、創業当初からの「ECO×REMOTE」という発想のもと、IoT と AI テクノロジーを活用し、環境負荷の低減と持続可能な社会の実現を目指す取り組みです。

具体的には、融雪システム遠隔監視ソリューション「ゆりもっと」において、融雪にかかる燃料使用量を平均 42% 削減し、すべての導入件数の総 CO2 削減量は年間 39,000 トン以上を誇り、コスト削減と環境貢献を両立させています。

また、EV スタンド導入 IoT 運用管理サービス「ユアスタンド」では、自社開発の IoT ゲートウェイデバイス「CLOUD LOGGER」を制御盤に組み込むことで、集合住宅などでの EV スタンド設置時に、電力容量を抑えて運用できる「デマンドコントロール」を実現しています。

最先端テクノロジーを用いたシステム開発で
現場の生産性・安全性向上を実現

建設・土木 DX 事業



▲ GRIFFY

AR と LiDAR センサーを用いた配筋検査 AR システム「BAIAS」や、NVIDIA CUDA を活用し、エッジ AI による独自 AI をスピーディに実装する柔軟性の高いシステム「PRORICA」の開発実績を核に、現場の生産性・安全性向上を実現しています。

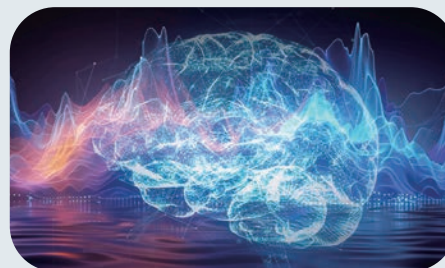
モビリティ事業



PREMIER BrightConnect

自社開発の通信機能付きドライブレコーダーや他社デバイスへの接続により、時代のニーズに合わせた柔軟なデバイス対応力を持ちながら、インテリジェンスな機能を搭載した専用アプリケーションを提供、安全運転管理をトータルで支援しています。

AI 研究開発



B-DASH プロジェクトにおける「ICT 技術（クラウド AI システム）を用いた汚水マンホールポンプのスマートオペレーションの実証」や、DeSET（海底探査技術開発プロジェクト）などの実績をベースに、次世代の AI テクノロジーを支える先駆的な研究開発を推進しています。

History



2007

融雪装置遠隔制御代行サービスを開始
北海道札幌市白石区にて設立
融雪装置遠隔制御システムの特許取得



2013

融雪装置遠隔制御代行システムの特許取得
本社を北海道札幌市中央区に移転



2016

株式会社テラスカイと業務・資本提携
KDDI 株式会社と提携し
「KDDI IoT クラウド Standard」をリリース



2018

東京証券取引所
マザーズ (現グロース) 市場に株式を上場



2021

ユアスタンド株式会社と業務・資本提携
合併会社株式会社プレミア・ブライコネクト設立
ティ・アイ・エル株式会社と業務・資本提携

2009

建設情報化施工支援ソリューション
「現場ロイド」をリリース
本社を北海道札幌市西区に移転
青森県青森市に青森営業所開設



2014

IoT データコレクトプラットフォーム
「FASTIO」をリリース
交通事故削減ソリューション「Pdrive」をリリース



2017

札幌証券取引所アンビシャス市場に株式を上場



2019

KDDI 株式会社と業務・資本提携



2023

積水樹脂株式会社と業務・資本提携
子会社 株式会社 GRIFFY 設立



Sustainability Report

サステナビリティ基本方針

私たちは、「もっと、グリーンな明日に。」をスローガンに社会の持続可能な発展に貢献することを企業の責任と考え、サステナビリティに関する取り組みを積極的に推進します。カーボンニュートラル社会の実現、そして地域社会との共生を基本方針とし、未来の世代に豊かな地球を残すために、企業活動のあらゆる側面で持続可能性を追求します。

行動指針

成長にコミット Commit to Growth
イノベーションへの挑戦 Challenge for Innovation
チームでコミュニケーション Communicate with Team
注意深くスピーディに Carefully and Speedy
社会への貢献 Contribution to Society
健康に気を配る Care for Wellness

ステークホルダーの皆さまにエコモットの活動を伝える
お客さま・株主さま・お取引先さま・社員・地域社会・子供たち



サステナビリティ活動

融雪制御装置の省エネ運転で CO2 削減
ユニークなアイデアで新しいソリューションを創出
チームワークの向上と健康な体づくり
働きがいのある仕事・より良い働き方の構築
安全で安心して暮せるまちづくり
社員やその家族・大切な人のウェルビーイングの向上

自社の技術力で、より多くの人々のウェルビーイングを
探求し、持続可能な社会を目指す

サステナビリティ活動報告

当社グループは、サステナビリティ活動を「環境・働く人・社会貢献」に分類し、「働く人」における、働きがいのある仕事・より良い働き方の構築（P18~P19）と社員やその家族・大切な人のウェルビーイングの向上（P20）を軸とした指標を定めます。当グループでは既に顧客への当グループ商品提供を通じて環境負荷低減を実現していますので、これらのサステナビリティ目標を新たに定めることにより、企業の社会的責任を更に推進できるものと考えております。

対象期間

2024 年 11 月 27 日 ～ 2025 年 11 月 27 日
※実績データは一部過去のものも含まれます。

対象組織

原則としてエコモット株式会社を対象としています。
※一部、グループ会社である株式会社GRIFFYの取り組みを紹介しております。

Sustainability Manager

サステナビリティ担当役員メッセージ

エコモットのサステナビリティ

取締役 副社長 *Akihito Naito*

エコモットの創業事業である、融雪システム遠隔監視ソリューション「ゆりもっと」は、北海道・北東北地方特有の「雪問題」を解決するサービスとして、今でも多くのお客さまにご利用いただいております。ロードヒーティングに IoT 技術を活用し、遠隔で監視・制御する仕組みであり、燃料コストだけではなく、CO2 削減にも大きく貢献しています。

このように、エコモットが提供するサービスは、社会課題の解決と同時に環境課題の解決にも繋がるものが非常に多いのが特徴です。また、グループ会社の GRIFFY も、建設業界特有の課題解決に向け、安全性向上と省人化を実現するソリューションを提供することで、業界で働く人々の働きやすい環境づくりに貢献しています。

エコモットグループは、IoT・AI のテクノロジーを具体的なソリューションとして提供し、お客さまと共にサステナビリティを推進しております。特に、提供するサービスが「環境」と「経済」の双方にダイレクトに影響を及ぼし、貢献できる点が、エコモットのサステナビリティ活動における大きな強みです。

今後も、エコモットグループに関わるすべてのステークホルダーの皆さまと連携し、より大きな視点でサステナビリティ推進を図ってまいります。

今後のサステナビリティ経営推進に向けて



エコモットの最大の強みは、多様な専門スキルを持つ「人財」の集積です。私たちは、この「人財」を真に価値ある資本とするため、積極的な人的投資と、誰もが最大限の能力を発揮できる働きやすい環境の整備に尽力します。この集結した「人財力」こそが、エコモットの持続可能な成長（サステナビリティ経営）を力強く牽引していく基盤となります。



Activity summary

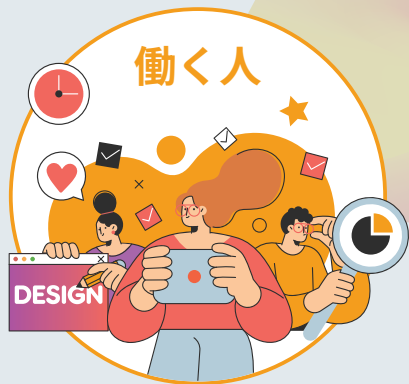
環境



コーポレートスローガン

未来の常識を創る

働く人



社会貢献



持続可能な社会 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

環境

IoT・AI テクノロジーによる GX 推進

ユニークなアイデアで新しいソリューションを創出

融雪制御装置の省エネ運転で CO2 削減

外部連携と社内実践で推進する環境活動

働く人

ウェルビーイングの向上

働きがいのある仕事・より良い働き方の構築

社員やその家族・大切な人のウェルビーイングの向上

チームワークの向上と健康な体づくり

社会貢献

持続可能なまちづくり

次世代を担う人材の育成

安全で安心して暮せるまちづくり

災害対策と復興支援

Creating Shared Value

北海道の地域課題を解決し持続可能な社会を目指す



創業の地である北海道を拠点にサステナビリティ活動を積極的に推進しています。北海道が有する豊かな自然と貴重な地域資源を未来へ継承するため、自社のテクノロジーを活用し、現地ヒアリングを通じて地域課題を特定し、その解決を目指します。

社会的価値と経済的価値の両立

Social Value

社会的価値（社会的課題の解決）

- ・ 社会インフラの維持
- ・ 関係人口の拡大
- ・ まちの特産品を守る



Social Value

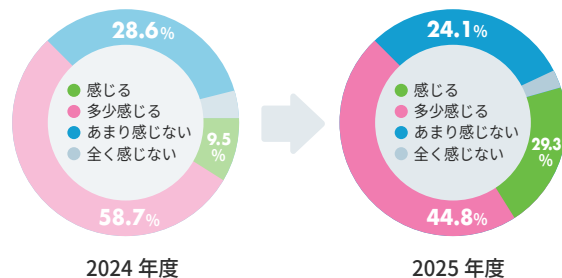
経済的価値（利益の獲得）

- ・ 自社 IoT & AI の普及
- ・ まちづくり DX
- ・ 地元企業との関係構築

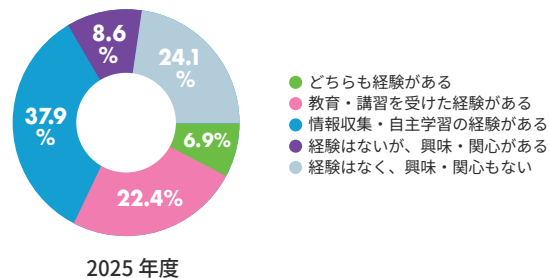
エコモットは、あらゆる課題を解決する可能性を秘めた IoT & AI という強力なテクノロジーを有しています。単に目の前の課題解決に社会貢献するだけではなく、その先の、地域に住む方々が心から安心して暮らせる未来を創造します。

サステナビリティに関する社内アンケート

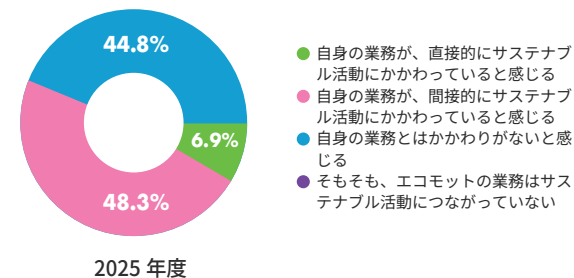
Q. サステナビリティを意識した経営をしていると感じますか？



Q. サステナビリティについて、教育・講習を受けたことがありますか。また、情報収集・学習をした経験がありますか。



Q. 自身の業務がサステナブル活動に関わっていると感じますか。



サステナビリティを意識した経営に関する社員へのアンケートでは、その実感度が前年と比較して約 20% 増加しました。また、社員の約 67% がサステナビリティに関する教育や情報収集を経験しており、約 55% が自身の業務との関連性を認識しているという結果が得られました。

Environment 環境

IoT・AI テクノロジーによる GX 推進

エコモットは環境問題を解決するための IoT・AI ソリューションを提供しています。
近い未来、それが当たり前になるような新しい革命的な 製品を世に出し、人々の幸せに貢献します。

ユニークなアイデアで新しいソリューションを創出

融雪制御装置の省エネ運転で CO2 削減

外部連携と社内実践で推進する環境活動

GX とは？

「GX」とは GreenTransformation の略称で、経済産業省が提唱する脱炭素社会に向けた取り組みを指します。GX はカーボンニュートラル実現、それを契機とした経済成長の両立を目指す取り組みであることが大きな特徴です。

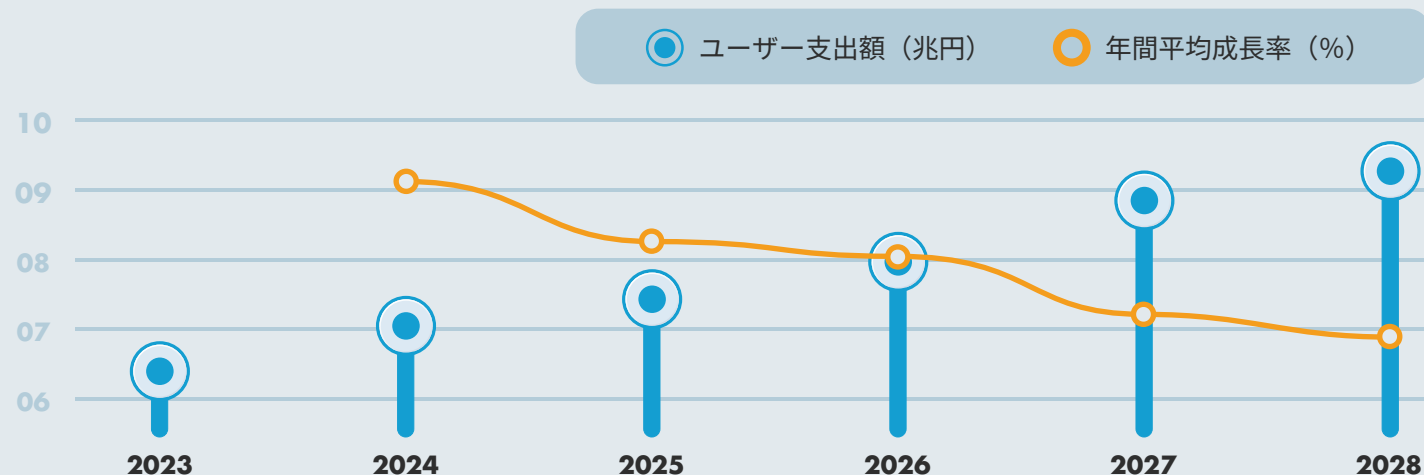
ロードヒーティング遠隔監視ソリューション「ゆりもっと」では年間 39,000 トン以上 CO2 を削減しており、さらにはカーボン・シナジー・コンソーシアム等への参画や社内でのエコ活動の取り組みを推進し、持続可能な社会の実現を目指しています。

IoT Technology

持続可能な社会に必要な不可欠な IoT テクノロジーとは

IoT とは「Internet of Things (モノのインターネット)」の略で、インターネットに接続された物理的なデバイスや機器が互いに通信し、データを交換するシステムのことを指します。これにより、デバイス間の連携が可能になり、効率的でスマートな操作が実現します。国内 IoT 市場におけるユーザー支出額の 2023 年実績は 6 兆 4672 億円、2023 年～2028 年の年間平均成長率 (CAGR) は 8.0% で成長し、2028 年には 9 兆 4818 億円に達すると予測されています。

国内IoT市場 支出額予測 2023 年～2028 年 (出典：IDC 国内 IoT 市場 支出額予測、2023 年～2028 年)



Point CO2 排出量や稼働データ等は環境課題解決に必要不可欠



環境課題に対する解決策を講じるためには、CO2 排出量や対象となるモノや人の稼働、環境データ等、様々なデータを可視化する必要があります。エコモットは 2,000 種類以上のセンサー接続実績を誇り、データの収集を得意としています。



IoT・AI Platform

実績豊富な IoT と最先端 AI テクノロジーが蓄積
スピーディに提供可能な自社プラットフォーム



IoT
CONNECT

IoTデバイス
DEVICE

ネットワーク
NETWORK

クラウド
CLOUD

アプリケーション
APP

AI
AI

高度なエンベデット技術により、あらゆる機器に対応
エッジ AI をメインとした最先端技術の保有

あらゆる機器と接続可能な IoT 技術



高度なエンベデット（組み込み）技術による、既存のあらゆる機器、カメラ、センサーとの柔軟な接続を実現し、デジタルデータを抽出します。また、お客様のニーズに適合する IoT デバイスを自社開発が可能。
IoT 導入実績は 10,000 件以上。

最先端 AI 技術と IoT を最大限に活かすソフトウェア開発



最先端の AI 技術を取り入れた開発。特に Edge AI 分野における NVIDIA の CUDA 開発環境での豊富な実績。
さらに、ソフトウェア開発や AI 研究、アプリ開発などあらゆる分野の技術者が在籍し、技術を高め合う環境を構築。

自社の技術を集約した IoT・AI プラットフォーム基盤



核となる自社開発のプラットフォームを保有、お客様の多様なニーズに対しスピーディな開発と柔軟なカスタマイズが可能。これまでに培った豊富な IoT 実績と最先端の AI テクノロジーを蓄積する基盤があることが当社の強み。

Use Case

環境データの収集から機器のリモート制御、モビリティや災害対策にも対応



空気の見える化



電気の見える化



温度湿度の見える化



機器のリモート制御



水門のリモート制御



エコドライブ診断



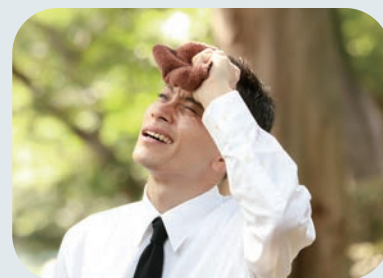
配送ルート最適化



災害の遠隔監視



ソーラー独立電源



熱中症計測

導入事例 IoT による水門遠隔操作の実証実験を青森県弘前市で開始



豪雨・豪雪時の安全確保と迅速な対応を実現し防災と地域の効率化に貢献

エコモットは、株式会社ジェミオと共同で、岩木川土地改良区および青森県弘前市管理の水門において、IoT データコレクトプラットフォーム「FASTIO」を用いた水門の遠隔操作実証実験を 2025 年 9 月より開始しました。

従来、大雨や豪雪時に現地での水門操作が必要であり、操作員の安全性確保と迅速な対応が課題でした。本実験では、既存の操作盤にエコモット製の IoT 端末「GLANIX LTE」を組み込むことにより遠隔操作を実現します。これにより、操作員は安全かつ迅速に水門操作が可能になり、移動時間とコストの削減も見込めます。

ロードヒーティングのムダな運転をIoTで削減し、カーボンニュートラル社会の実現を目指す

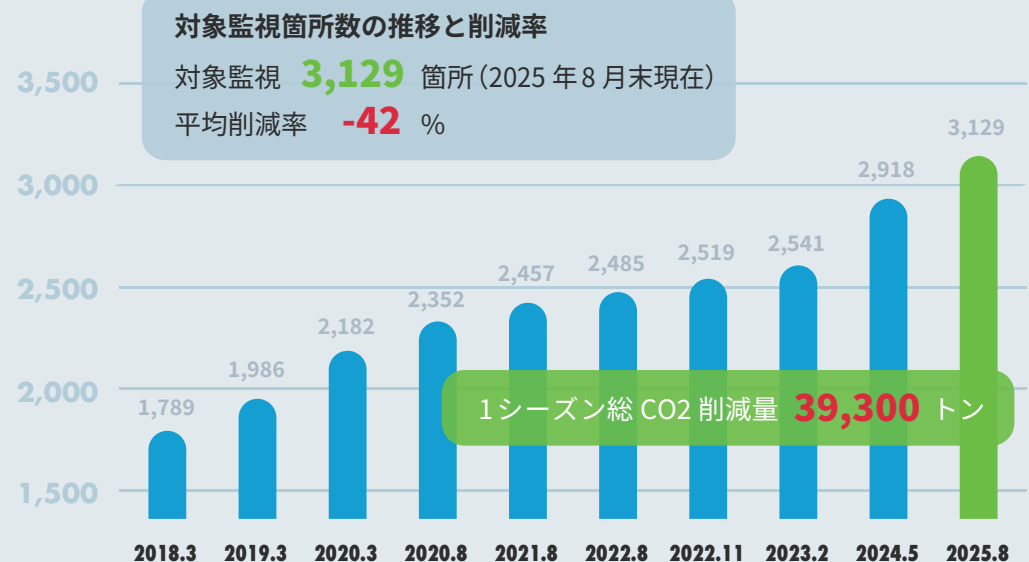
IoT ゲートウェイデバイスとカメラを既存のボイラーに取り付けるだけで、リモートでボイラー運転制御・画像撮影を可能とし、融雪監視センターで24時間運転代行をおこなうソリューションです。

これにより、従来の自動（センサー）運転による積もらない程度の少量の降



雪に対するムダな運転、雨やみそれなどにも反応してしまう誤認運転などを解消し、現場の状況と雲の動き・気温・風速等の気象データを加味した効率の良い運用が可能となり、大幅に燃料コストを削減することができます。エコモットが創業当初から提供しているソリューションで、札幌・北東北のマンションや商業用施設などに多くの導入実績があり、IoT や AI など最先端の技術を駆使して洗練されたオペレーティングを実現しています。

1シーズン約 39,300 トン^(※1) の CO2 削減に成功 前年に比べ、対象監視箇所が約 200 件増と順調に推移



※ 当社 CRM と独自の調査により総削減量を算出

約 13,500 世帯分の年間 CO2 排出量をリカバリー

「ゆりもっと」による CO2 排出量削減効果は、一般世帯の年間 CO2 排出量に換算すると、約 13,500 世帯分に相当します。この規模は、北海道内の亀田郡七飯町（ななえちょう）全体の世帯数に匹敵する排出量を相殺していることになり、非常に大きな社会貢献効果をもたらしています。

私たちは、この貢献をさらに拡大し、今後は20,000世帯分のCO2排出量リカバリーを目指し、カーボンニュートラル社会の実現に、より一層貢献してまいります。

※ 令和2年度 家庭部門のCO2排出実態統計調査の結果(確報値)について (<https://www.env.go.jp/press/110829.html>)

Environmental Activities

北海道・札幌を中心に環境コンソーシアムに参画
持続可能な社会貢献と環境価値創出を目指す

さっぽろエコメンバー（レベル2）

「さっぽろエコメンバー登録制度」は、札幌市が、環境にやさしい取り組みを自主的に実践している事業所を登録し、「見える化」する制度です。

この制度により、市民にその活動が紹介され、環境に配慮した取り組みの輪を広げるとともに、地球を守るより良い環境づくり・まちづくりの実現を目指します。



札幌 SDGs 企業

この制度は、SDGs 達成に取り組む市内企業を市が「見える化」し、SDGs 経営を推進するものです。登録企業は、具体的な SDGs への貢献を通じて、ブランドイメージの向上、新たな顧客や ESG 投融資の獲得など、持続可能な経営の実現を目指します。



カーボン・シナジー・コンソーシアム

中小企業と家庭からの温室効果ガス排出削減を加速させることを目的に、地域の環境価値を J-クレジットに変換する「カーボン・シナジー・コンソーシアム」(クレアトゥラ株式会社設立)に参画し、同コンソーシアムの会員企業として、これまでの IoT・AI ソリューション実績を活かし、J-クレジット創出に資する地域の環境価値発掘を推進します。

使わなくなった本や文房具などのリユースを通じて
社員のサステナビリティ意識向上を促進



エコモットでは、環境に配慮した取り組みの一環として、本、文房具、衣類などを対象としたリユース BOX を社内に設置しました。このリユース活動の推進により、資源の有効活用を促すとともに、社員一人ひとりのサステナビリティ（持続可能性）に対する意識の向上を目指してまいります。

社用封筒は「FSC® 森林認証紙」を使い森林保全を支える



FSC® 森林認証紙とは、国際的な森林管理協議会（FSC）の基準に基づき、環境・社会・経済の面で適切に管理された森林からの木材のみを使用して作られた紙であり、これを選ぶことは世界の森林保全を支える行動につながります。

Well Being 働く人

一人ひとりのウェルビーイング向上を目指して

健康管理や子育て・介護の福利厚生、柔軟な勤務体制の導入、メンタルヘルスサポートの提供など、多様な取り組みを通じて、社員とその家族や大切な人が心身ともに健康で充実した生活環境を構築できるよう努めています。また、定期的なフィードバックと資格支援制度を通じて、社員が自分らしく力を発揮できるよう支援しています。

働きがいのある仕事・より良い働き方の構築

社員やその家族・大切な人のウェルビーイングの向上

チームワークの向上と健康な体づくり

Well Being とは？

ウェルビーイング（Well-being）」とは、身体的・精神的・社会的な健康と充実感がそろった良好な状態のことを指します。単純に病気がないだけでなく、心身のバランスが整い、夢や目標に邁進し生活全般が満たされている状態です。

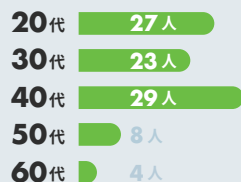
仕事においては、社員がやりがいや生きがいを感じ、ストレスが少なく、安心して働ける環境をつくるのがウェルビーイング向上の目的とされています。

Welfare Benefits

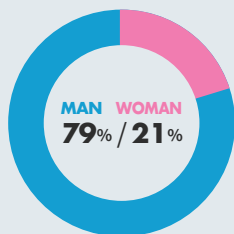
社員が自分らしく力を発揮できる職場環境
仕事でもプライベートでも、より充実できるようサポート



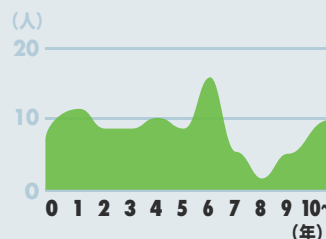
年齢構成



男女別構成比



勤続年数



エコモットはバランスの取れた年齢層で構成されており、女性も働きやすい環境となっています。また、外国人の社員数も年々増加しており、ダイバーシティ採用を導入しております。(2025年8月末現在)

休暇

週休二日制（土日・祝日）	原則、土日祝休みの完全週休二日制です。
年次有給休暇	有給休暇はいつでも理由の申告なく使うことができます。 有給取得推奨日など、休暇を取得しやすくする制度もあります。
夏期休暇	カレンダーにより変動します。 有給休暇と合わせることで、長期休暇を取ることを推奨しています。
年末年始休暇	カレンダーにより変動します。 有給休暇と合わせることで、長期休暇を取ることを推奨しています。
慶弔特別休暇	ご家族や本人の慶弔時に休暇が付与しています。

給与・各種手当

賞与 年2回（6月と12月）	基本の賞与の他、インセンティブや社内表彰などさまざまな賞与があります。
給与改定 年2回（4月と10月）	社内の独自の基準をもとに評価しています。
通勤手当	通勤にかかる交通費（月上限 5 万円まで）を支給しています。
みなし手当	固定残業 10 時間分 20,000 円含みます。固定残業時間を超えた場合もしくは 20,000 円を超えた場合は、超過分を支給しています。
子ども手当	扶養するお子さんの人数に応じて手当が支給しています。2 人までは、1 人につき月額 5,000 円、3 人目からは、1 人につき月額 10,000 円支給です。
従業員持株会制度	エコモットの自社株を毎月一定額分購入できる制度で、拠出金の 10% を奨励金として会社から支給されます。
退職金	企業型確定拠出年金と社内積立の二本立てです。
奨学金返還支援制度	若手人材（30 歳未満）の奨学金返済による経済的負担軽減を目的とし、月上限 15,000 円までを会社が代理返還する制度です。

Make a Good Work

若者が自分らしく、働きやすい環境
モチベーション向上やスキルアップなど充実した福利厚生

奨学金返還支援制度



複業制度



社内交流制度



社内表彰制度



インセンティブ制度



資格取得奨励金制度



開発職における平均資格取得数^(※1)と主な資格

目標 **平均 2.0 件**

実績 **平均 2.13 件**

2025 年 10 月末現在

IoT システム技術検定 [中級]	6 人
情報処理安全確保支援士	4 人
AWS 認定 Solution Architect	7 人
G 検定 (ジェネラリスト検定)	5 人
Azure Developer Associate	2 人

※1 対象資格は IoT システム技術検定 [中級] 試験、情報処理安全確保支援士試験、AWS 認定試験、Microsoft Azure 認定資格、G 検定とします。

若手社員でもすぐに馴染める働きやすい職場環境
目標をサポートするための福利厚生も充実

質問 どんな仕事をしてますか？

私はプロジェクトリーダーをやっています。お客さまとの連絡・調整をしたり、メンバーのフォローなどをメインでやっております。

みんなでひとつのモノ・ひとつの機能ができた時はすごいやりがいを感じてます。

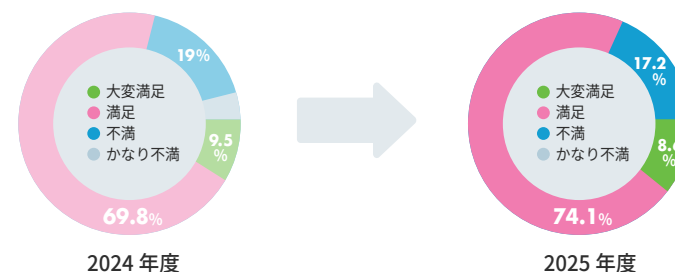


質問 今後の目標ややりたいことは？

プロジェクトリーダーとして活躍している S.N. さん

仕事はクラウドについての理解を広げたいと思ってます。資格を取るとかハンズオンをやってみるなど勉強して、実際の業務に活かしていきたいです。プライベートはジムに行っているので、筋トレで体重を 65 キロにすることを目指しています。

Q. エコモットの福利厚生に満足していますか？



福利厚生に対する満足度は前年より微増し、80%を超える結果となりました。

Well Being

子育て・介護支援を軸とした生活サポートを通じて
社員が長く安心して働ける会社づくりを推進

ベビーシッター補助



予防接種補助



妊活補助



質問 エコモットの子育て支援はどう？

エコモットはすごく子育てに優しい会社なのかなと思っていて、「子の看護休暇」という制度があり、1 時間単位で取得することができます。子供が熱をだしたとかで、急なお迎えができてしまった時も時間単位でサッと取得してサッと帰る。もちろん仲間の協力があってこそなんですけど、そういうのも **（社員のみんな）**



子育てと仕事の両立を心がけている T.M さん

（社員のみんな） 気持ち良く「休暇とっていいよ」って言ってくれるような環境でもあるので、そういった面ではすごく助けられていると思ってます。

Q. 男性社員の育児休暇取得制度利用率

育児休暇取得利用率 **100%** の継続を目指す。

2025 年 8 月末現在

道内企業初の『産後ケア宿泊費助成制度』を導入 従業員のワークライフバランス向上と子育て支援を強化

近年、産後うつや育児の負担が社会問題として取り上げられる中、企業においても従業員のライフイベントを支援する施策の重要性が高まっています。

エコモットは本制度を通じて、産後の母親とその家族が安心して育児に向き合える環境を提供し、働きやすい職場づくりを支援します。

本制度では、株式会社 Cocokara が提供する、北海道初の本格的な産後ケアサービス「Cocokara」を活用しています。

「Cocokara」は、出産直後の母親が安心して心身を休めることができるよう、助産師による 24 時間体制の赤ちゃんの預かりや育児相談など、専門的なケアを提供しています。



利用者インタビュー 実際に制度を利用した感想（経験した母親のコメント）

「これまで一度も赤ちゃんを預けたことがなかったので不安でしたが、**授乳や睡眠の様子を写真付きで細かく報告してくれるので、安心して過ごすことができました。**授乳の報告後には念願だった大好きな居酒屋のお酒を久しぶりに楽しむことができ、良いリフレッシュになりました。」

厚生労働省「くるみんプラス」に認定

認定基準を満たした上で、不妊治療と仕事の両立しやすい職場環境整備に取り組み一定の要件を満たした企業に対し厚生労働大臣が行う認定です。



Teamwork & Fitness

『健康な精神は健康な肉体に宿る』
福利厚生やスポーツイベントで社員の健康をサポート

法人契約スポーツジム



部活制度



共済会制度



毎月2回の社内ヨガ教室で体と心をリフレッシュ

質問 社内でヨガ教室を始めたキッカケ

GRIFFY（エコモットのグループ会社）で働いているかたわら、副業でヨガインストラクターをやっております。社長に「ヨガを会社で取り入れませんか？」という提案書を出して、それがOKしてもらえたので、月2回、仕事のあとに誰でも参加できるような、ヨガ教室をやることに



社員兼ヨガインストラクターのC.Kさん

なりました。部署とか関係なく、いろんな人が参加しているので普段あまり話す機会がない人と話せたり、終わったあとにご飯に行ったりするので、すごい雰囲気はいいと思います。

本当に誰でも気軽に参加してもらって、会社に入ったばかりの人やなにか不安に思っていることがある人も、ここに来れば誰かに相談できる場をつくることで会社に貢献できたらいいなと思います。

法人契約スポーツジムで健康な体づくりと社員交流
心身ともにリフレッシュ

エコモットでは、札幌市内のスポーツジム「SAN GRAN FIT」と法人契約を結んでおり、その高い社内利用率が特徴です。

エンジニアをはじめデスクワークの社員が多い中で、この制度は心身のリフレッシュに役立っています。今までジムを利用していなかった社員も、社内の利用者と一緒にトレーニングを始めるなど、健康増進と社員交流の場としても活用されています。また、共済会制度の一部にもスポーツジムの優待が含まれております。

毎年『北ガスリレーマラソン』に社員のみで参加

エコモットでは、社員の健康増進とより強固なチームワークの向上を目的として、年間を通じて多様な活動を推進しています。

その代表的な活動の一つが、毎年夏頃に社内で希望者を募り参加する「北ガスリレーマラソン」です。このイベントは、日頃の健康管理を促すだけでなく、部署や役職を超えた社員同士の活発な交流の場となっています。



リピート参加するメンバーも非常に多く、前年より早いタイムを目指して自主練習をおこなったり、練習後にはBBQやサウナなどを共にしたりと、組織全体の結束力を高める機会として活用されています。

また、当日走り終えた後には、恒例のジンギスカンで打ち上げを行い、一日の健闘を称え合いながら社員間の親睦をより一層深める貴重な行事となっています。

Company Club

多様な部活動を推進し、ワークライフバランスをサポート
社員同士の円滑なコミュニケーションの構築



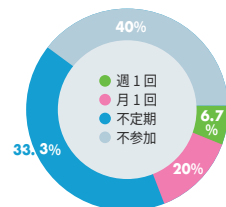
エコモットが多様な部活動を推進する理由は、社員の心身のリフレッシュとウェルビーイングを向上させるとともに、部署や役職の垣根を越えた強固なチームワークと円滑なコミュニケーションの構築を目指しているからです。

また、相談しやすい環境を通じて、社員が長く安心して働ける心理的安全性の高い組織文化を戦略的に強化しています。

Q. 部活別メンバー数と参加比率 (2025年10月末現在)

野球部	15人
バスケットボール部	16人
バドミントン部	8人
ゴルフ部	9人
テック部	11人

部活には、どの程度参加していますか。



創業当初から活動している エコモットの野球部

エコモットでは、創業当初から野球部が活動を続けています。

当初は野球経験者も少なく、メンバー集めに苦労することもありましたが、今では経験者の社員や未経験だけでも楽しそうだからやってみたいという社員も年々増え、休日にリーグ戦に参加するなど活発的に活動しています。

野球部は、仕事では味わえない貴重な経験ができるとともに、部署や役職を超えた社内の相談事も気軽にできる場となり、メンバー同士の交流を深めています。

また、エコモットは北海道IT推進協会が主催するソフトボール大会にも毎年参加しており、第22回大会では念願の優勝を果たしました。

若い社員がベテラン社員を誘い、自発的に練習日程を組んで優勝に向けて取り組む経験は、普段の業務では味わえない貴重な経験となり、社員の成長と強固な結束に繋がっています。



Company Event

社員研修やイベントを通して馴染みやすい職場づくり



学生時代とは違った自由を楽しんでいる K.I さん

質問 エコモット社員の印象は？

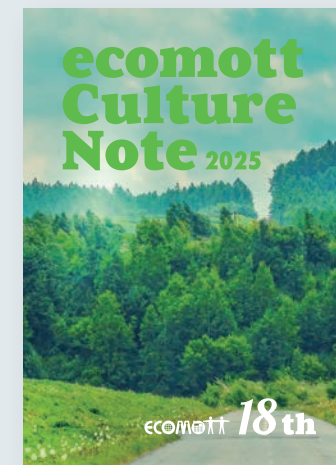
私は同期の存在が大きかったです。人数が多かったのでお昼話したらリフレッシュできて、そこから徐々に馴染んでいけるようになりました。

社会人になった時の「人間関係」の不安って、恐い人いないかなとか不安はあったんですけど、ほとんどなくて話しかけたらフランクに返してくれる人が多いので、馴染みやすかったです。

エコモット文化と価値観を共有する『カルチャーノート』発行

エコモットのカルチャーノートは、私たちの「文化」と「価値観」を明確にし、全従業員で共有するために毎年更新される冊子であり、日々の業務における姿勢やルール、共通の考え方を示すことで、全従業員が同じ価値観と行動原則を共有し、組織全体の連携強化、意思決定のスピードアップ、生産性向上に繋げることを目指しています。

また、新入社員がスムーズに文化に馴染み、自らの力を十分に発揮できるためのチュートリアルとしても利用されています。



エコモット 2025 年度イベントカレンダー

社員研修

アイディアソン

定時株主総会

除雪ボランティア

釣り体験・モルック

環境広場さっぽろ

09 月

10 月

11 月

12 月

01 月

02 月

03 月

04 月

05 月

06 月

07 月

08 月

ソフトボール大会



野球部活動期間

納会・初詣



ボーリング大会



新卒入社式



SORACOM Discovery



リレーマラソン大会



野球部活動期間

ヨガ&バスケットボール&バドミントン部活動期間

その他部活動（不定期で開催）

Ideathon

浜益の自然の中で取り組む 革新的アイディアソン

エコモットには「北海道で自社開発できる唯一無二の企業を目指す」という目標があります。技術者たちが持つ高度な技術力を活かし、それを新たなビジネスへと昇華させる機会として、このアイディアソンを企画しました。

CTO（最高技術責任者）から示されたテーマをもとに、参加者は3チームに分かれて議論を開始します。



アイディアソンのフィールドとなったのは、私たちがサステナ活動を通じて関わりを深めている浜益の自然豊かな環境です。日常の業務から離れ、雄大な自然の中で実施されたチームビルディングは、普段とは異なる柔軟で大胆な発想を呼び起こしました。

夜は地元で獲れた水産物や浜益の水で育ったお米、浜益産牛ハンバーグや鹿肉など、絶品料理を堪能しながら親睦を深めることができました。



参加者インタビュー

自社開発を行っている 会社ということが エコモットの大きな魅力

Q. 今回のアイディアソンについて

今回アイデアソンに参加したのは、自社サービス開発につながる機会だったということが一番大きな理由でした。開発者目線だと、自社開発を行っている会社ということがエコモットの大きな魅力のひとつです。

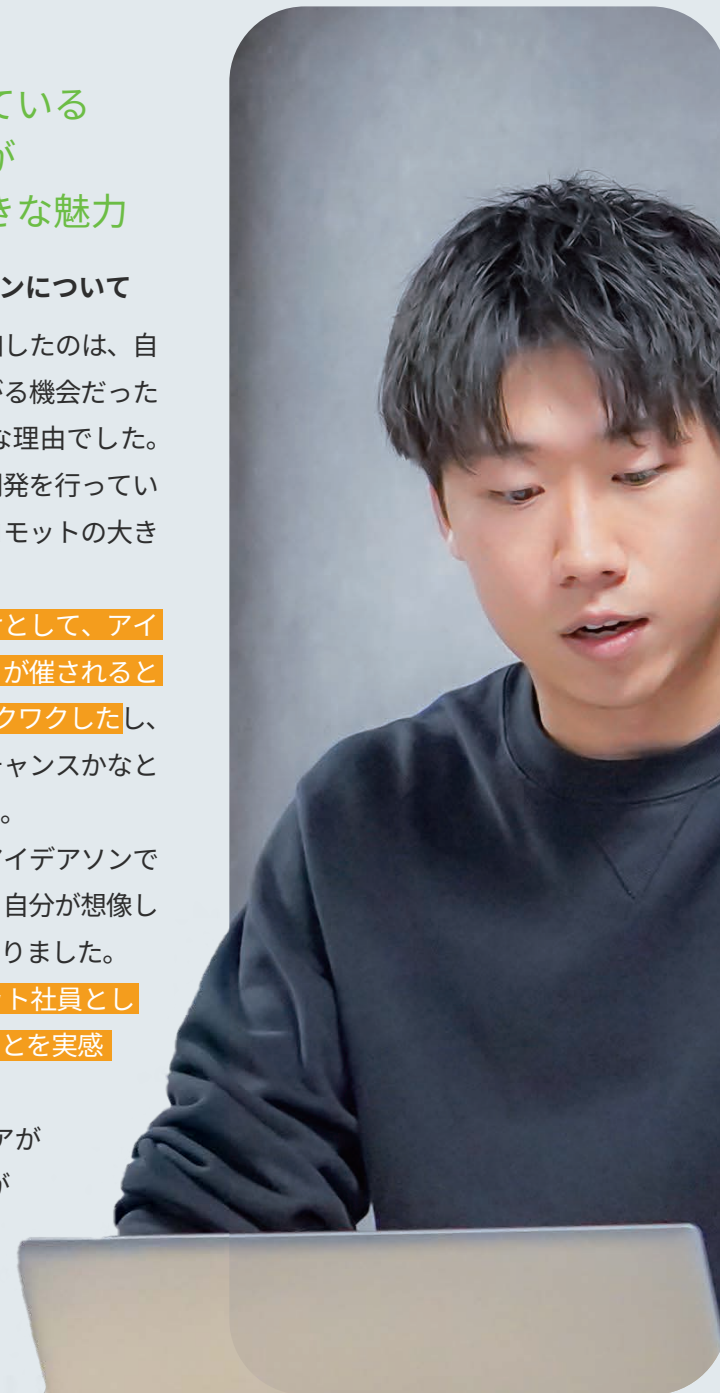
その**「自社開発のきっかけとして、アイデアソンというイベントが催されると知ったときは、非常にワクワクしたし、エコモットならではのチャンスかな」と**思い参加を決意しました。

そんな思いで参加したアイデアソンですが、振り返ってみると自分が想像していた以上の気づきがありました。

「社会人として、エコモット社員としてレベルアップできたことを実感しています。」

あとはチームのアイデアがプロジェクト化するのが楽しみです！

今回リーダーとして
参加してくれた S.N さん



I Love Hokkaido 社会貢献

北海道の持続可能なまちづくりを支援

私たちは、北海道の持続可能なまちづくりを支援するために、AI や IoT などの最先端テクノロジーを駆使して、地球温暖化による環境問題や人口減による少子高齢化問題などの課題解決を支援します。自然環境と調和した地域づくりや再生可能エネルギーの導入を推進し、住民が安心して暮らせる社会を目指しています。

次世代を担う人材の育成

安全で安心して暮らせるまちづくり

災害対策と復興支援

北海道の課題 とは？

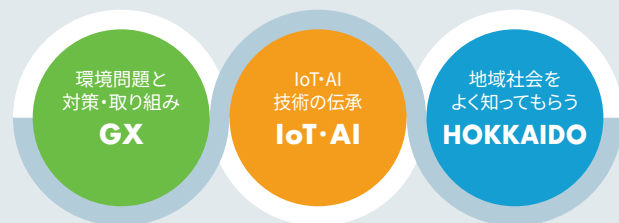
北海道は現在、人口減少や少子高齢化による地域経済の縮小や、道路・橋・水道といったインフラの老朽化による修繕管理、冬期間の CO2 排出量や災害対策など、多くの課題に直面しています。これらの問題を解決するため、持続可能なまちづくりや環境に配慮した産業の発展が求められており、効率的な管理と持続的な運用のための資金や技術の確保など、GX（グリーントランスフォーメーション）による改革が求められています。

Personnel Training

北海道の未来を担う若い世代に学びの場を通じて
IT テクノロジーや環境社会に配慮した行動や意識を育む



サステナブル社会を支える次世代のリーダー・技術者を育成



地域の環境・経済・社会の課題解決を導き出すためには、最先端テクノロジーだけではなく、多角的な視点や柔軟な発想が不可欠です。教育やイベントを通じて環境に配慮した技術や革新的なアイデアを活用できる人材の輩出を目指します。

【環境広場さっぽろ 2025】

自社開発の iPad アプリで「環境 × AI」未来を描く体験を



毎年「環境広場さっぽろ」に参加しています。今年はゴミ分別チャレンジと題して、クイズに正解するとおやつがゲットできるゲームを出展しました。子供たちが楽しみながら環境問題や SDGs について学んでもらえるよう、毎年、工夫を施して参加しています。

中学生の企業訪問を受け入れ IT 人材の育成をサポート

地域の中学生在エコモットを訪問し、IT 業界や事業概要について学んでいただきました。プレゼンテーションでは北海道の IT 企業がどのように社会貢献しているのか、IoT 技術が生活や社会の中でどのように役立っているのかを紹介しました。



リユース PC を通じた子ども教育支援活動

エコモットでは、業務で使用されなくなったノートパソコン 16 台を北海道 IT 推進協会へ寄付いたしました。寄付された PC はリユースされ、全国の子どもの教育支援に活用されます。

Social Contribution

エコモットの社会貢献活動がスタート 「浜益区地域づくり共助プロジェクト」



今回、私たちが新たに挑戦しているのが「浜益区地域づくり共助プロジェクト」です。北海道の石狩市浜益区にある、さくらんぼ農園では高齢化と後継者不足により閉園の危機に直面していました。

そんな中、NPO 法人 ezorock さんが農園の運営をお手伝いすることになり、さくらんぼ農園を通じて、浜益に住む皆さんと地域に愛着のある皆さんが集えるようなコミュニティ農園の設立を目指し、新しい一歩を踏み出すことになりました。

サステナ推進室では、そこを浜益の皆さんへの貢献とエコモット社員のウェルビーイング向上のためのフィールドにしたいと考え、微力ながらお手伝いをスタートしております。

ただ、さくらんぼ農園は山里はなれた「通信不感地帯」であったり、さくらんぼ栽培の経験者がいなかったり、私が苦手な虫が大量発生してたりと、課題が山積みになっているのが現状です。

10 年周期でやってくる 北海道民を恐怖の底に突き落とす「マイマイガ」の襲来

自然は私たちの都合を待ってくれません。何もしなければ、問題はどんどん大きくなってしまいます。これは、プロジェクトを通じて私たちが痛感していることです。もし、農園が手つかずになれば、雑草が生い茂り、さくらんぼの木も伸び放題になってしまうなど、自然の恐ろしさを肌で感じています。そして、今年に関しては「マイマイガ」が大量に発生していました。



つゆ知らず、さくらんぼの木のナンバリング&データ収集のために農園を訪れましたが、木の上には幼虫がびっしり居座っており、困難な作業が続きましたが、なんとかその日の作業を完了させることができました。

浜益の隠れた魅力を「食」で体験&イベントのお手伝い



浜益には、その豊かな自然が育む、さくらんぼや、驚くほどジューシーな「浜益和牛」、そして現地の清らかな水で育ったお米など、近くの道の駅でもなかなか手に入らない、魅力的な食材が多く存在します。

夏に開催された「Farm to Tent」での試食会モニター等のお手伝いもおこなっております。

Creating Safe City

創業の地である札幌市での社会貢献活動
誰もが安心して快適に暮らせるまちづくりに貢献



札幌に本社を置く企業として、地元での社会貢献活動を活発に展開しています。
この社会貢献の機会を社員だけでなく、その家族も参加できるようにすることで、
より多くの方々に持続可能なまちづくりについて意識し、学ぶ場を提供したいと考えております。

サステナビリティ推進室担当者のコメント



「もっと、グリーンな明日に。」の実現には、環境貢献に加え、地域社会との共生が不可欠です。
地域が直面する課題を共に考え、その解決に貢献することが、私たちの責務と考えています。安心安全なまちづくりへの協力、ボランティアといった社会貢献活動を、微力ながらもコツコツと継続し、地域との対話と信頼を深めて行きたいです。

社員の家族も参加できる恒例イベントとして企画・運営
サステナビリティに関する教育の場として活用

やさしさっぽろメンバーズ（市社協の賛助会員）に参加



札幌市社会福祉協議会を通じて継続的に社会貢献をおこないます。
社会貢献活動を進めることで多様な課題や困難を抱えている方々が少しでも豊かに生活できるようサポートし、誰もが安心して暮らせる社会を目指します。

社員とご家族で除雪ボランティアに参加



エコモットは 2025 年 1 月、札幌市社会福祉協議会が主催する除雪ボランティアに参加し、2 世帯の除雪活動を実施いたしました。
今後も除雪ボランティアに取り組むことで、地域社会と、その大切さを未来を担う子どもたちへ伝えていく活動を続けてまいります。

札幌市内のフードバンクに協力



札幌市内でフードバンクをおこなっている「NPO 法人フードバンクイコロさっぽろ」の活動に協力しています。社員の自宅にある余った食品を福祉施設やひとり親世帯、こども食堂などに届けてもらうことで、安心して暮らせるまちづくりに貢献しています。

Disaster Detection

リモートで安心・迅速な災害対応を実現する
エコモットの「災害検知ソリューション」



災害発生時、被害状況の確認のために担当者が現地へ向かい、二次災害に巻き込まれるケースが多々あります。

エコモットの災害検知ソリューションは、長年の現場経験で培われた IoT ノウハウにより、電源や通信回線を必要とせず、現地に機器を設置するだけで稼働します。これにより、リモートでの被災状況把握を可能にし、現地へ行くことなく、二次被害のリスクを最小限に抑えた救助活動の支援を実現します。

- 特徴 1** 想定される利用ケースにあわせた IoT パッケージ製品の提供が可能
- 特徴 2** ソーラー電源とモバイル通信の組み合わせにより、容易に持ち運び可能
- 特徴 3** クラウドアプリケーションで複数人でのリモートモニタリングが可能

IoT による水門遠隔操作の実証実験を青森県弘前市で開始
豪雨・豪雪時の安全確保と災害時の迅速な対応を実現



エコモットは、株式会社ジェミオと共同で、岩木川土地改良区および青森県弘前市管理の水門において、IoT データコレクトプラットフォーム「FASTIO」を用いた水門の遠隔操作実証実験を2025年9月より開始しました。

従来、大雨や豪雪時に現地での水門操作が必要であり、操作員の安全性確保と迅速な対応が課題でした。本実験で

は、既存の操作盤にエコモット製の IoT 端末「GLANIX LTE」を組み込むことにより遠隔操作を実現します。これにより、操作員は安全かつ迅速に水門操作が可能になり、移動時間とコストの削減も見込めます。

サステナビリティ推進室担当者のコメント



エコモットは、東日本大震災や北海道胆振東部地震といった大規模災害を現地で経験したことから、災害検知ソリューションの提供をおこなっています。私自身も、東日本大震災の際に余震が続く中で仙台へ赴き、ソーラー電源システムを提供した経験があり、自社製品が社会の役に立っていることを肌で感じることができました。

Disaster

東日本大震災をきっかけに 「IoT が救える命」をテーマに 災害検知サービスの提供を スタート

創業 5 年目の 2011 年 3 月 11 日、東日本大震災を目の当たりにして、「危険を知らせることが人命救助に貢献する。IoT で救える命がある」と確信しました。

この震災を機に、エコモットでは人の命を守るための IoT を生み出すことが、私たちの使命と考えるように



なり、「震災検知サービス」の提供開始、ならび「現場ロイド」製品のラインナップ拡充を図り、災害対策を支援しています。

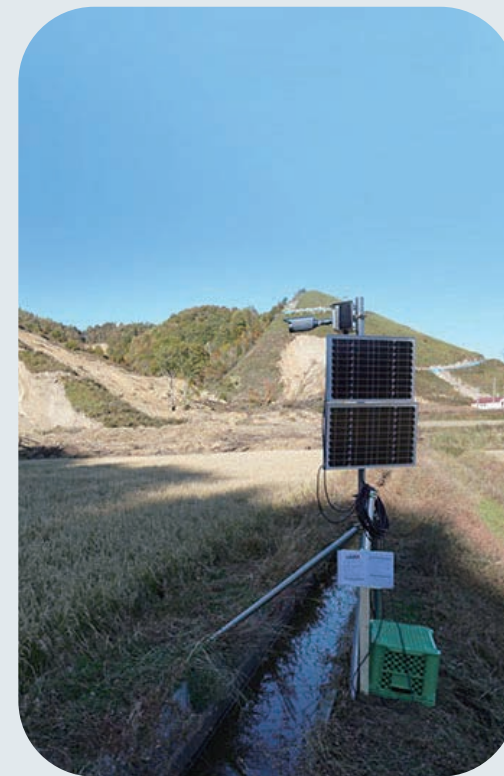
震災大国日本において安心して暮らせるよう、テクノロジーによる災害対策を普及し、豊かな自然をはじめとする持続可能な社会基盤を守り、未来の世代に安心と美しい環境を残せるよう推進してまいります。

二次災害から命をまもる IoT テクノロジー リモートモニタリングによる 安全な現地確認

2018 年 9 月 6 日、北海道胆振東部地震により地すべり被害が各地で発生しました。各地で地盤が緩んでおり、地すべり再発防止にあたって危険箇所の地表面変化を観察する必要がありました。地すべりの予兆を察知するためには人による巡回監視を要しますが、現地は危険があり、リモートによるモニタリングが求められていました。当然ながら現地には電源や通信回線はなく、それらすべてを短期で用意しなければなりません。

ソーラー電源で駆動、モバイル通信機能を有する当社カメラシステムを複数箇所に設置。これにより現地の様子をどこからでも把握できるようになりました。

また、短納期への課題であった通信契約による出荷遅延、モニタリングアプリケーションの開発など、遠隔監視に必要なすべての要素をワンストップで提供できるため、要請から数日後には現地導入を可能としています。



「令和 6 年能登半島地震」被害に対する支援

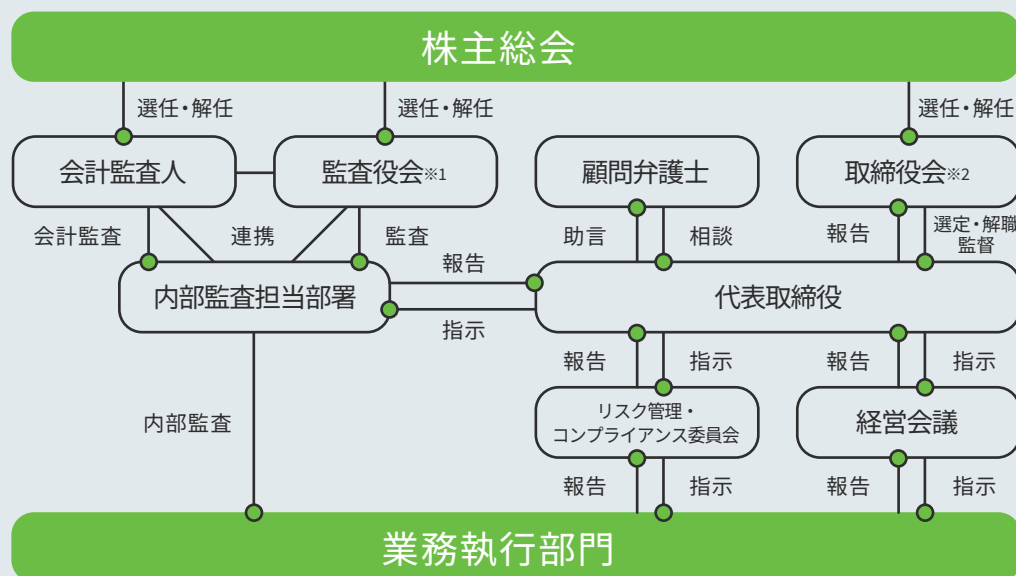
地震により大きな被害を受けた石川県内の行政機関、被災自治体支援や災害調査に携わる事業者様向けに、グループ会社である株式会社 GRIFFY の「遠隔臨場システム G リポート」を計 40 台、無償にて貸与いたしました。

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、企業価値を継続的に向上させ、事業を通じて社会に貢献し、あらゆるステークホルダーから信頼される企業であり続けるために、コーポレート・ガバナンスの充実が重要な経営課題であると認識しており、経営の健全性や機動性の向上を図るとともに、経営の透明性を確保するための経営体制を構築し、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでおります。

2024年11月現在、取締役会を構成する6名の実務取締役のうち、女性を含む社外取締役を2名選任し、多様な視点を経営に反映させるとともに、経営戦略の方針に関する意思決定機関及び職務執行の監督機関としての役割を担い、社外監査役3名で構成される監査役会が監査機関としての役割を担っており、ガバナンス体制の充実に努めるとともに、若手の抜擢人事などを行い次世代のマネジメント層育成に努めてまいります。

コーポレート・ガバナンス体制図



※1 監査役会（監査役3名内3名は社外監査役） ※2 取締役会（取締役6名内2名は社外取締役）

ISMS 認証について

■ ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）の国際規格認証取得の背景、目的

昨今、情報セキュリティ上のリスクが多様化・高度化・複雑化しており、IoT システムインテグレーターとして大量のデータを取り扱う当社といたしましては、セキュリティ対策を講じ、常に安心・安全なサービスを提供し続ける事は最も重要な経営課題の一つです。

この課題を解決するにあたり、ISMS の構築、認証取得することにより、全社的なセキュリティ対策への意識を更に向上させると共に、常に新たなセキュリティリスクへ対応可能な組織となり、更なる事業発展に資するに値すると考え、取得するにいたしました。

当社の情報セキュリティ基本方針のページ：<https://ecomott.co.jp/security.html>



■ 認証登録概要

認証規格：JIS Q 27001:2025（ISO/IEC 27001:2022+Amd 1:2024）

認証登録範囲

- ・IoT システムインテグレーションサービスの提供
- ・IoT パッケージサービスの提供
- ・AI 技術を活用した調査分析業務およびシステム開発
- ・建設現場向けの DX ソリューション提供

組織名称：エコモット株式会社 / 株式会社 GRIFFY

対象事業所（2025年10月現在）

【エコモット株式会社】本社、本社技術センター、東京営業所、青森営業所

【株式会社 GRIFFY】本社・東京営業所、札幌営業所、札幌技術センター、仙台営業所、新潟営業所、名古屋営業所、大阪営業所、広島営業所、福岡営業所

初回登録日：2019年10月21日

審査登録証：JP19/080587

認証機関：SGS ジャパン株式会社

会社概要

商号	エコモット株式会社 (Ecomott Inc.)
代表者	代表取締役 入澤 拓也
設立	2007 年 2 月 19 日
資本金	6 億 1,796 万円 (2025 年 8 月末現在)
本社所在地	〒060-0031 北海道札幌市中央区北一条東 1 丁目 2-5 カレスサッポロビル 7F TEL: 011-558-2211 / FAX: 050-3156-3988
各拠点	東京営業所・青森営業所
従業員数	158 名 (2025 年 8 月末時点 連結)
事業内容	IoT インテグレーション事業
証券コード	3987 上場証券取引所 東京証券取引所グロース市場 札幌証券取引所アンビシャス市場
加入団体	北海道経済連合会 / 札幌商工会議所 / 一般社団法人 北海道 IT 推進協会 / 一般社団法人 北海道マルチテック・クリエイティブ協議会 / 一般社団法人 さっぽろイノベーションラボ / i-Construction 推進コンソーシアム / AI x IoT ビジネス共創ラボ / 北海道 AI x IoT ビジネス共創ラボ / 札幌市 IoT イノベーション推進コンソーシアム / 民族共生象徴空間交流促進官民応援ネットワーク / 公益財団法人財務会計基準機構
適格請求書発行事業者登録番号	T6430001034659

グループ会社



株式会社 GRIFFY

20,000 件を超える現場導入実績を持つ DX プロダクトのレンタルサービスを収益基盤として、ゼネコン各社との共創を通じた DX ソリューションの創出を加速。今後はアプリケーション開発とサービスのサブスクリプション提供を強化することで、収益性の向上および販売チャネルの多様化を目指す。

URL <https://griffy.co.jp/>



株式会社プレミア・ブライコネクト

IoT 機器の開発力を持つエコモットと緊急通報サービスのノウハウを持つプレミア・エイドの合併会社として、テレマティクス・サービスおよび緊急通報サービスを提供するための機器、システム、インフラの設計・開発を一貫して行い、安全で効率的なスマートモビリティ社会の実現を支援する。

URL <https://www.premier-bc.co.jp/>

エコモット株式会社 サステナビリティレポート 2025-2026

発行：2025 年 11 月 27 日

お問い合わせ：エコモット株式会社 サステナビリティ推進室

ご意見ご要望：(URL) <https://www.ecomott.co.jp/opinion/>



もっと、グリーンな明日に。

Towards a Greener Tomorrow

発行元 エコモット株式会社

〒060-0031 北海道札幌市中央区北一条東 1 丁目 2-5 カレスサッポロビル 7F

TEL: 011-558-2211 / FAX: 050-3156-3988